

コンセール 21 管弦楽団 第 57 回定期演奏会

モーツァルト 歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》序曲 K. 588
W. A. Mozart: Overture from “Così fan tutte,” K. 588

モーツァルト 交響曲第 36 番ハ長調 K. 425 《リンツ》
W. A. Mozart: Symphony No.36 in C Major, K. 425, “Linz”

《 休憩 》

シューベルト 交響曲第 6 番ハ長調 D. 589
F. P. Schubert: Symphony No. 6 in C Major, D. 589

2021 年 10 月 9 日 (日) 13:30 於：サンパール荒川 大ホール

ご挨拶

本日はコンセール 21 管弦楽団第 57 回定期演奏会にご来場いただきありがとうございます。今回は藤崎凡先生を指揮者にお迎えして、モーツァルトとシューベルトを演奏いたします。当団結成以来、初めてご当地荒川区で演奏会を開く運びとなりました。

当団は昨年来、第 55 回、56 回の演奏会も予定

していたのですが、コロナウィルスの感染拡大により、残念ながら中止せざるをえませんでした。今日こうして演奏する喜び、お聴きいただく喜びを、この瞬間に皆さまと共有できますことを、感慨深くありがたく存じます。ごゆっくりお楽しみいただければ幸いです。

コンセール 21 管弦楽団 代表 斎藤 健

オンライン・アンケートへのご協力をお願い

今後の参考にさせていただくため、本日の演奏会に関するアンケートにご協力いただければ幸いです。2、3分で終了する簡単な内容です。スマホからは右の QR コードからもアクセスできます。

<https://forms.gle/MaLok9QWbavHNuba8>



指揮: 藤崎 凡

Conductor: Fujisaki, Bon



慶應義塾大学文学部卒業後、桐朋学園大学オーケストラ研究生（指揮専攻）修了。指揮を秋山和慶、小澤征爾、尾高忠明、高階正光、J・フルネの各氏に、ピアノを池田素子氏にそれぞれ師事。1989年、アメリカのタングルウッド・ミュージックセンターでL・バーンスタイン、K・マズア、G・マイヤーのクラスで研鑽を積んだ。帰国後

は全国のオーケストラ、吹奏楽団、コーラスと多くのコンサートを行う一方、洗足学園音楽大学（オーケストラ、吹奏楽、オペラ）、エリザベト音楽大学（オーケストラ、指揮法）の講師として教育の分野でも活躍。小学校、中学校、高等学校の合奏指導も多数行っている。2012年4月から2019年3月まで、45名の吹奏楽団と15名のカラーガードから成る警視庁音楽隊第8代隊長として、定期演奏会や日比谷公園で春秋に毎週行われる水曜コンサート、都内の学校でのスクールコンサート、インドネシア・シンガポール・ベトナム・ミャンマー・タイでの国際交流演奏など、年間130回に及ぶ同隊のコンサートのほとんどを指揮した。コンセール21管弦楽団の指揮者としても、1992年2月の第3回定期演奏会から長年に渡って合計20回以上の定期演奏会を指揮している。

日本吹奏楽指導者協会、日本指揮者協会会員。

コンサートマスター: 西田史朗 Concert Master: Nishida, Shiro

東京藝術大学音楽学部卒業。旧奏楽堂木曜コンサートに室内楽で出演。ルーテル市ヶ谷、ムジカーザ、オペラシティ・リサイタルホール等で度々リサイタル、コンサートを行い好評を博す。近年はムジカーザにて、ブラームス室内楽シリーズやドヴォルザーク室内楽シリーズ、ベートーヴェン後期カルテットシリーズ等を企画、演奏して好評を博している。

多数のコンチェルトをオーケストラと共演。ソロ、室内楽、オーケストラ、ミュージカル、スタジオ録音等、幅広く活動。今までにアンサンブル・セシード、アルジャン・サロン・オーケストラ、日本オペレッタ管弦楽団等のコンサートマスターを務

める。

また広島交響楽団、千葉交響楽団等に客演コンサートマスターとして、新日本フィルハーモニー交響楽団に客演2ndヴァイオリン首席奏者として出演。



YAMAHA アネックス弦楽アンサンブル中上級クラス講師。東京藝術大学管弦楽研究部非常勤講師（藝大フィルハーモニア管弦楽団メンバー）。日本各地でアマチュアオーケストラの指揮、指導を行っている。

曲目紹介

モーツァルト 歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》序曲 K. 588

W・A・モーツァルトは生涯に 17 のオペラを作曲しましたが、本日序曲を演奏する「コジ・ファン・トゥッテ（女はみんなこうしたもの）」は亡くなる前年に初演されたオペラブッフア（喜劇風オペラ）で、「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」に続く、台本作家ロレンツォ・ダ・ポンテとの最強コンビによる最後の作品となります。恋人と離れ離れになった姉妹が、新たな誘惑に負けずに貞淑を守ることが出来るかについて、男たちが賭けをするというような、いささか不道德で差別的なタイトルと内容であるにも関わらず、このオペラが現代においても世界中で多く上演されているのは、ひとえにモーツァルトの音楽、特に主人公の姉妹に対して書かれた音楽が素晴らしいからでしょう。

喜劇的な流れの中に、モーツァルト晩年の音楽に特徴的な哀しげで透明感のある音楽が散りばめられています。”コジ・ファン・トゥッテ“のセリフは劇中フィナーレ直前に置かれ、この序曲においてもそのテーマがアンダンテの序奏の終わりの部分に現れます。主部はプレストの快速な音楽で、木管楽器に繰り返される早口のような主題を中心に、喜劇らしい快活な音楽がソナタ形式で繰り広げられます。終りの方で一瞬速度が止まり、”コジ“のテーマが再び現れます。その後再びプレストに戻り、一気にコーダを迎えます。

約1年半ぶりに開催されるコンセール 21 の演奏会、この曲のように快活に開始することが出来ればと思います。

(Vc ベルヴェデーレ)

W. A. モーツァルト 交響曲第 36 番ハ長調 K. 425 《リンツ》

プログラム係が「誰も曲紹介を書かない、ブンブン！」とぼやくので、頑張っって引受け苦闘中。また後悔の歴史の繰返しです（苦笑）。

歴史といえば、モーツァルト史と「リンツ」をぎゅっと要約すると以下の様になります。

W・A・モーツァルト（1756～91）はザルツブルク生まれ。父レオポルトが幼少から音楽教育を施し5歳で初の作曲を行ったとも。早熟の天才は交響曲だけで40曲以上を残し35年の生涯を駆け抜けます。リンツはウィーン～ザルツブルク間にある同国第三の都市。親族の反対を押切り結婚したモーツァルトは1783年10月父らに会い、関係修復するためザルツブルクに新婚旅行し、ウィーンの帰途にリンツを訪問。ハ長調の明るい調性で始まる旋律は、新妻を父らに紹介後、パトロンに当

地で歓迎され仕事を頼まれご機嫌な証拠？ 多忙でわずか4日で作曲と伝わるも完成度は驚異的！彼の後期6大交響曲の一つです。フルート無しの編成から「フルート苦手説」も。

ともあれ第1（ハ長調、アダージョ～アレグロ・スピリトーソ）、第2（ハ長調、アンダンテ）、第3（ハ長調、メヌエット）、第4楽章（ハ長調、プレスト）と全て長調の曲の詳説は演奏を聴くにせず、と省略（はしよりすぎか）。

奇しくも今日のコンサートのプログラムは前、中、メイン三曲ともハ長調。通底するのは天才たちが共有するウィーンやオーストリアの空気感でしょうか。シューベルトはベートーヴェンを大変敬愛、私淑しその葬儀にも参列したとのことですが、そのベートーベンは少年時代にモーツァルト

に音楽のレッスンを受けていたとされ、モーツァルトの影響はシューベルトら後世の音楽家にも及ぶとされています。これも次曲で感じられれば幸

いです。

(Vla K. 1218)

シューベルト 交響曲第6番ハ長調 D. 589

フランツ・シューベルトの交響曲第6番は1818年、作曲者21歳の年に作曲されています。生前の演奏記録は残っていませんが、5番までの初期の交響曲と同様、私的なサークルの中のオーケストラで演奏されたといわれています。正式な初演は死の直後、1828年12月に行われました。この交響曲は同じハ長調で書かれている第8番、通称「ザ・グレート」に比べて演奏時間が短いことから「小ハ長調」と呼ばれることが多いですが、シューベルト自身は作曲当時、規模の大きなハ長調交響曲と認識していたようです。一つ前に書かれた第5交響曲に比べて編成も規模も大きいこと、それまでの交響曲に比べ、旋律楽器としての木管楽器の重要性が高まっていることなどが理由として挙げられます。

曲は4楽章からなります。第1楽章は華やかながら陰影のあるアダージョによる序奏で始まり、

主部は快活なアレグロ、木管楽器による軽やかな主題を中心に展開します。第2楽章はアンダンテのテンポによるシューベルトの歌の世界で、ティンパニとトランペットが更に音の広がりを加えます。第3楽章はスケルツォのダイナミックな音楽。中間部トリオでの転調を伴う和音に導かれた木管楽器の下降音型とヴァイオリンの流れるような旋律も印象的です。第4楽章はアレグロ・モデラートのロンド・フィナーレ。歌謡性に富んだ2つの旋律を中心に繰り広げられ、ファンファーレも加わり、盛り上がり曲を終わります。

初々しくも、作曲者が新たな段階に踏み出そうとしているような時期の音楽を本日はお楽しみいただければ幸いです。

(Vc ベルヴェデーレ)

当団について

コンセール21管弦楽団は、1991年に音楽監督玉置勝彦先生の元に参集したメンバーによって設立されました。設立当初より、特定の母体を持たないアマチュア・オーケストラとして自主運営され、学生・社会人・主婦等、様々な背景を持つメンバーによって構成されております。

年に2回程度のペースで定期演奏会を開催し、ハイドン、モーツァルトからストラヴィンスキー、ヒンデミット、ショスタコーヴィチに至るまで、幅広い曲をプログラムにとり上げて参りました。

設立以来、桂冠音楽監督の故・玉置勝彦先生、藤崎凡先生、各トレーナーの先生方にご指導を頂き、全団員がより一層の向上を目指して普段の練習に取り組んでおります。

次回の演奏会について

フルオーケストラでの次回演奏会につきましては、ただいま計画中です。決定次第、当団ホームページにてお知らせいたします。

公式ホームページ <http://concert21.jp/>